

大崎小学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・「自ら培った三つの力を発揮し、社会をよりよくしようとする子どもの育成ー学びをつなぎ 地域・社会とつなげ 未来につながる ESD の実践を通してー」をテーマに、総合的な学習の時間や各教科の時間を使って、ESD 活動を進めている。
- ・『㊦笑顔あふれる㊧世界のために㊨できることからはじめよう』を合言葉に、「自分たちにできること」を追究していくことで、持続可能な社会の担い手の育成を図る。
- ・カリキュラム、授業、地域のつながりを生かした学びの工夫をすることで、社会のさまざまな問題を自分事として捉え、自分の可能性を最大限に生かしながら社会に貢献するための基礎づくりを行う。

・活動の実際

① 4 年生

梅田川ぴかぴか掃除隊 ～大崎のまち 大崎の生き物のために～

大崎校区は、海や川など豊かな自然に囲まれている。4年生は春の自然観察で梅田川に出かけたとき、そこで生き生きと動くカニやヤドカリ、水中を浮遊するクラゲなどの様子を夢中になって観察していた。一方で、周りにペットボトルや使用後の釣り道具などのごみが散乱していることに気づいた子もいた。

市の下水道出前講座のときに、水質の検査について学んだ子どもたちは、梅田川の水質の COD を調べたところ、予想以上に汚れていることを知った。「自分たちにできることはないだろうか」と考え、梅田川ぴかぴか掃除隊を結成してごみ拾いを行った。また、自分たちが調べた梅田川のごみの実態や、ごみを減らす方法などを、2月に行われる学習発表会で地域に広めていく予定でいる。



② 3 年生

みんな大好き 大崎じまんのキャベツ

これまでの3年生が育てたキャベツを、毎年もらってきた子どもたち。大崎の特産品となっているキャベツを今年は自分たちが育てる、という思いから、2学期にキャベツ栽培を始めることになった。種まきの方法を用務員さんに教えてもらい、無事、発芽させることができた。

次に子どもたちは、「いつ畑に定植をしたらよいのか」「虫がついたり、病気になったりしたらどうしたらよいのか」という疑問をもち、一人調べをした後に、農業ボランティアさんにインタビューを行った。農家さんの工夫や苦労、喜びなどを知った子どもたちは、話し合いの結果、自分たちの力でキャベツを育てていくことを決めた。毎日欠かさず様子を観察し、大切に育てている3年生の大崎キャベツは、ぐんぐんと元気に成長を続けている。

